

八ヶ岳東南麓他  
遺跡分布調査報告書

1987. 3

山梨県教育委員会

# 八ヶ岳東南麓他 遺跡分布調査報告書

1987. 3

山梨県教育委員会

# 序

本報告書は、昭和61年度国庫補助金事業として実施された遺跡詳細分布調査の結果をまとめたもので、調査の対象は、〔I〕八ヶ岳広域農道計画地内、〔II〕塩川ダム建設計画地内、〔III〕クラフトパーク建設計画地内の3地域あります。

〔I〕は八ヶ岳地区における広域営農団地農道整備事業に伴う遺跡詳細分布調査で、対象地域は北巨摩郡須玉町・高根町など八ヶ岳南東麓の5町村に及んでおります。用地取得済の試掘及び計画地の踏査による調査を7か所について実施した結果、3か所からは遺構・遺物が検出されませんでしたが、4か所から縄文時代中期後半を中心とする縄文土器や平安時代の須恵器・土師器などが採集され、うち1か所からはピット群や土壙などの遺構が検出されました。

〔II〕は北巨摩郡須玉町塩川地内のダム建設事業に伴う遺跡詳細分布調査で、対象地域は須玉町塩川・比志の両地区であります。ダムによって水没する地域の試掘調査並びに関連の道路建設計画地内の踏査を3か所について実施した結果、県道の付替えが計画されている比志地区から、縄文時代中期最終末期を主体とする縄文土器と石器が採集されました。また塩川地区の前の山の山頂一帯は、戦国期武田氏の領国経営に重要な機能を果たした烽火台の置かれた場所で、石積み遺構が残されております。

〔III〕は広域公園として山梨県土木部が計画しているクラフトパーク（峡南工芸公園）地内の遺跡分布調査で、対象地は南巨摩郡身延町下山地区の約50haであります。下山は戦国期武田氏の一族穴山氏の居館が置かれたことで知られますが、分布調査並びに試掘調査の結果、当時の陶器・磁器・土師質土器多数が発見されたほか、貴重な焰硝蔵の遺構が確認されました。

以上、3地域の遺跡分布調査の結果、各地区から遺構・遺物を検出し、重要な研究資料であるとともに、今後の保存対策についての基礎資料が得られました。本報告書が、多くの方々にご利用いただけますよう念じております。

末筆ながら、ご協力を賜わった関係機関各位並びに直接調査に当たられた方々に厚く御礼申し上げます。

1987年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

## 例　　言

1. 本報告書は昭和61年度国庫補助金事業として実施された。遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査は山梨県埋蔵文化財センターが実施し、八ヶ岳広域農道及び塩川ダム建設予定地内の調査は田代孝文化財主事が行い、クラフトパーク（峠南工芸公園）は末木健・八巻與志夫文化財主事が行った。
3. 本書の作成及び執筆分担は次のとおりである。

I. 八ヶ岳広域農道計画地内	田代
II. 塩川ダム建設計画地内	田代
III. クラフトパーク建設計画地内	末木
4. 本調査で得た資料は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

## 目　　次

I. 八ヶ岳広域農道計画地内遺跡分布調査	1
II. 塩川ダム建設計画地内遺跡分布調査	11
III. クラフトパーク（峠南工芸公園）計画地内遺跡分布調査	16

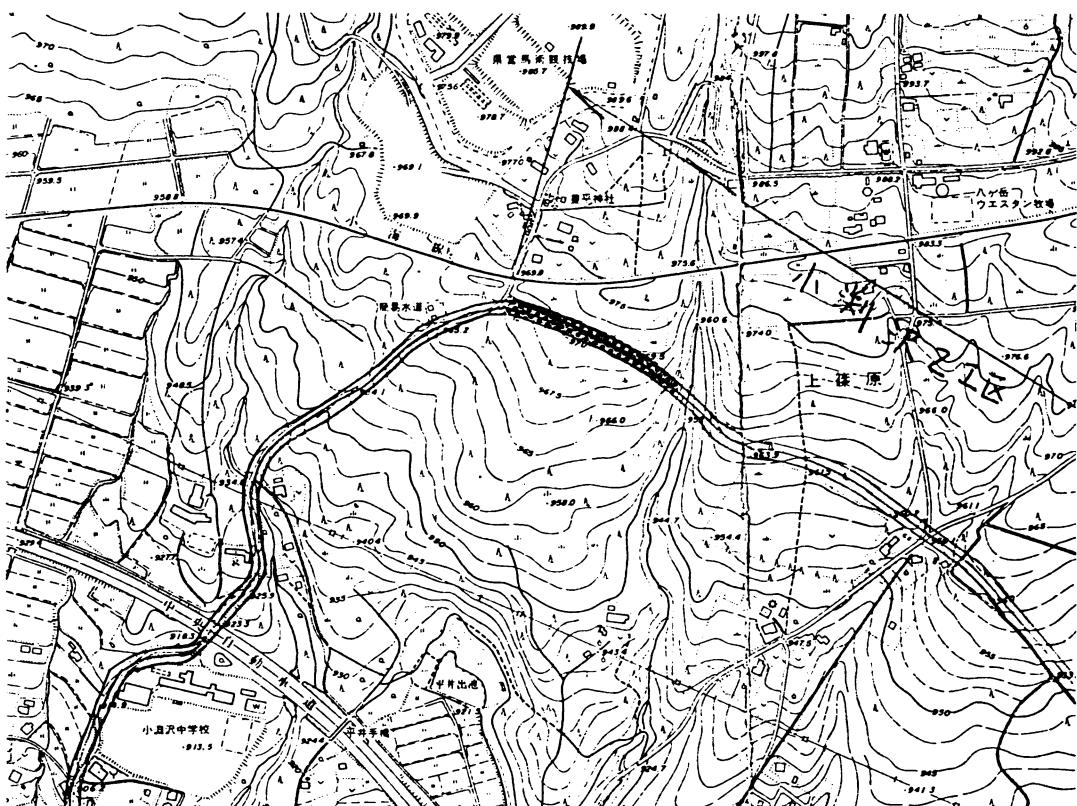
# I 八ヶ岳広域農道計画地内遺跡分布調査

## 1. はじめに

八ヶ岳地区における広域営農団地農道整備事業に伴う遺跡詳細分布調査を行ったが、用地取得済の試掘および計画地の踏査による調査である。対象地域は須玉町、高根町、大泉村、長坂町、小淵沢町であり、八ヶ岳東南麓にあたる町村である。標高にして630mから930mの位置である。なお、調査は9月から12月にかけて実施した。

## 2. 分布調査

### (1) 山梨県北巨摩郡小淵沢町棒道下



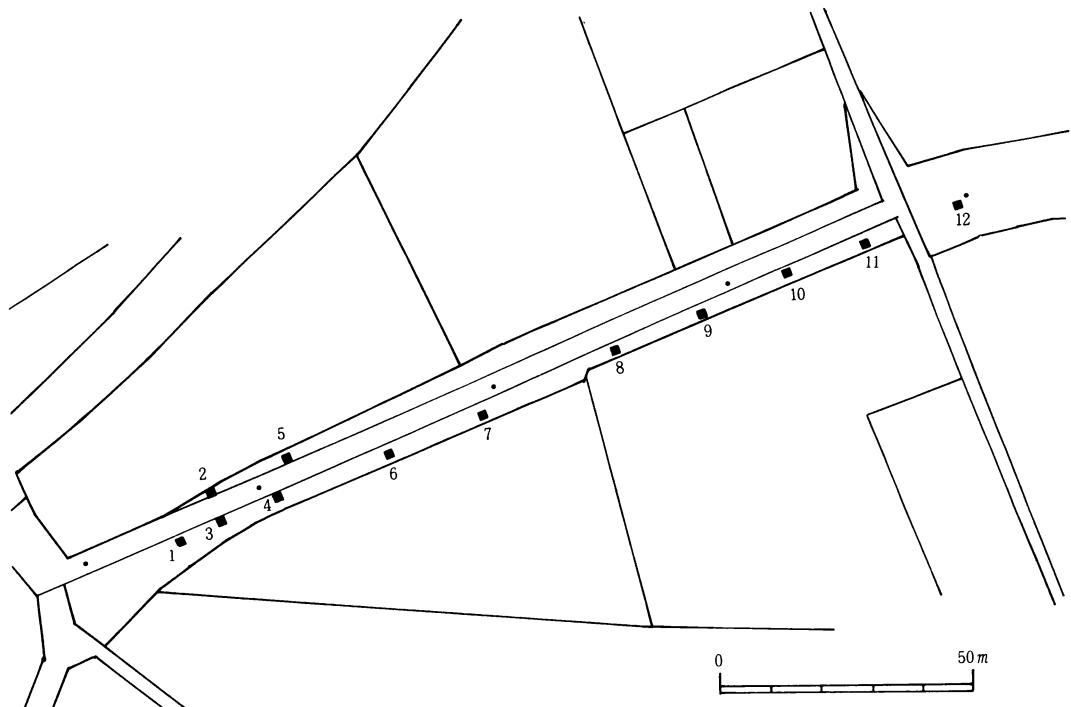
第1図 位置図

調査区域は、南北に発達した尾根上である。標高は970mほどであり、国鉄小海線がすぐ傍らを東西に走っている。さらに踏切を越えた北側200mには県営馬術競技場がある。

調査区域は、かつて山林であったところを牧草地や畠地として切り開いたが、現在は原野化しつつある状況となっている。調査は農道計画地のうちの長さ200m、幅が12mの範囲に12カ所のトレンチを設定して、遺構や遺物の確認を行った。

結果として遺構・遺物については、全く検出することができなかった。

土層については、No.5 トレンチで示すと、I層は表土で根などが混入している部分で、10～20cmほどである。II層は黒色土（15～25cm）の堆積であり、III層は黒褐色土（15～20cm）、IV層は黄褐色土で地山となる。なお、東側へ寄ったトレンチのうち、No.9～No.12トレンチでは、II層およびIII層において岩石が露頭した状態になっている。調査区の東端付近に小さな沢があることから、北からの岩石の流出などが考えられるところである。



第2図 全体図

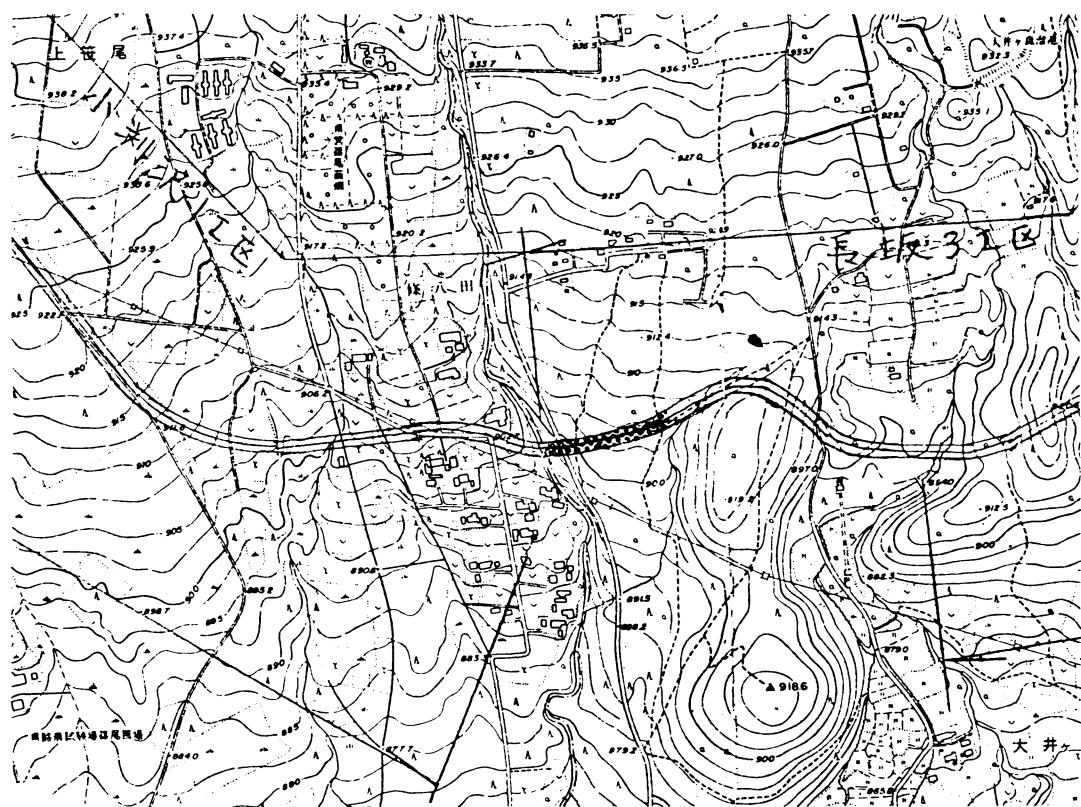
## (2) 山梨県北巨摩郡長坂町大井ヶ森

調査地区は、長坂町と小淵沢町との境界となる女取川に接した山林である。女取川を西として東へ200mの区間であり、標高は900～910mである。山林は北から南へゆるやかに傾斜した地形となっている。調査地区から北へ1.5kmほどには小海線が走っている。

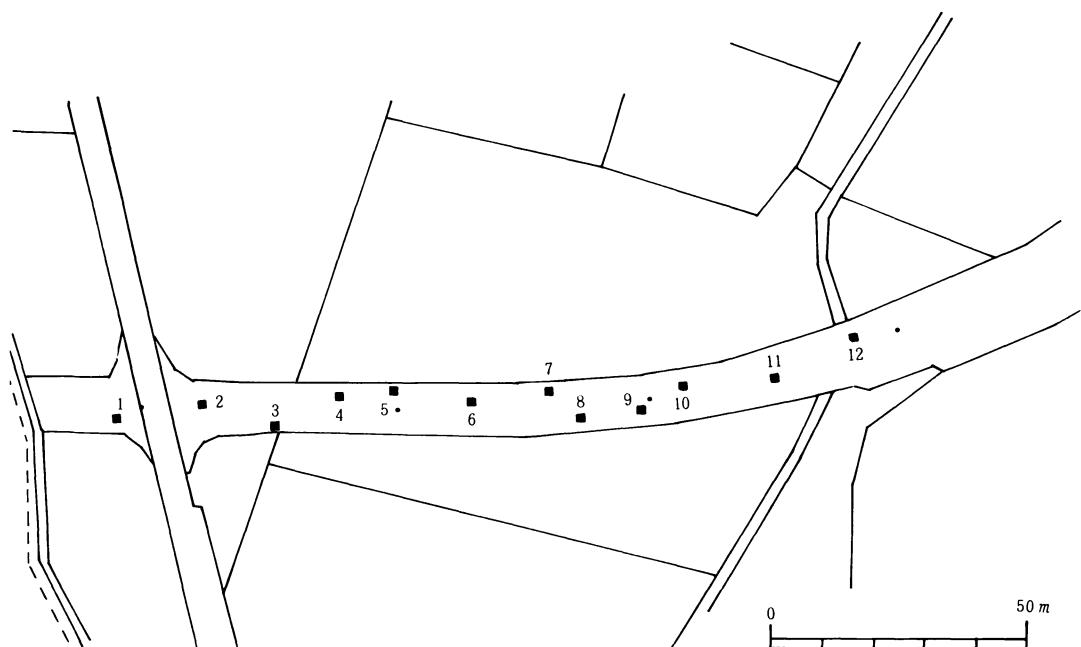
調査区では山林内の立木をさけ、12カ所のトレンチを設定して調査を行った。調査地点では遺構・遺物を検出することができなかった。

土層はNo.1 トレンチで、90cmの深さで I層の砂質の黒色土層と II層の黄褐色土層（地山）とに分けることができる。No.2 トレンチでは I層黒色土層（30cm）、II層黄褐色土層（20cm）、III層黒色土層（25cm）、IV層黄褐色土層となり、黒色土層と黄褐色土層の重なりを確認することができた。やや標高があがるがNo.6～No.12 トレンチでは、I層の黒色土層と黄褐色土層の境は30～40cmのところである。

調査地区全体としては、東側に向かって標高があがるにしたがって、I層の黒色土層は浅いようであるが、西側の女取川に寄る地帶では I層の黒色土層が深くなっている傾向がある。



第3図 位 置 図



第4図 全 体 図

### (3) 山梨県北巨摩郡大泉村大芦

調査地区は、大泉村と長坂町との境にあたるところであり、鳩川によって分けられている。鳩川より東へ200mの区間である。東端より少し先が山田川となり、さらに進むと米山溜池がある。

標高936m～942mほどで、付近一帯は山林となっている。山林内は南へゆるやかな斜面を形成している。また調査地区から北へおよそ1.3kmには、小海線の甲斐小泉駅があり、小荒間地区となっている。

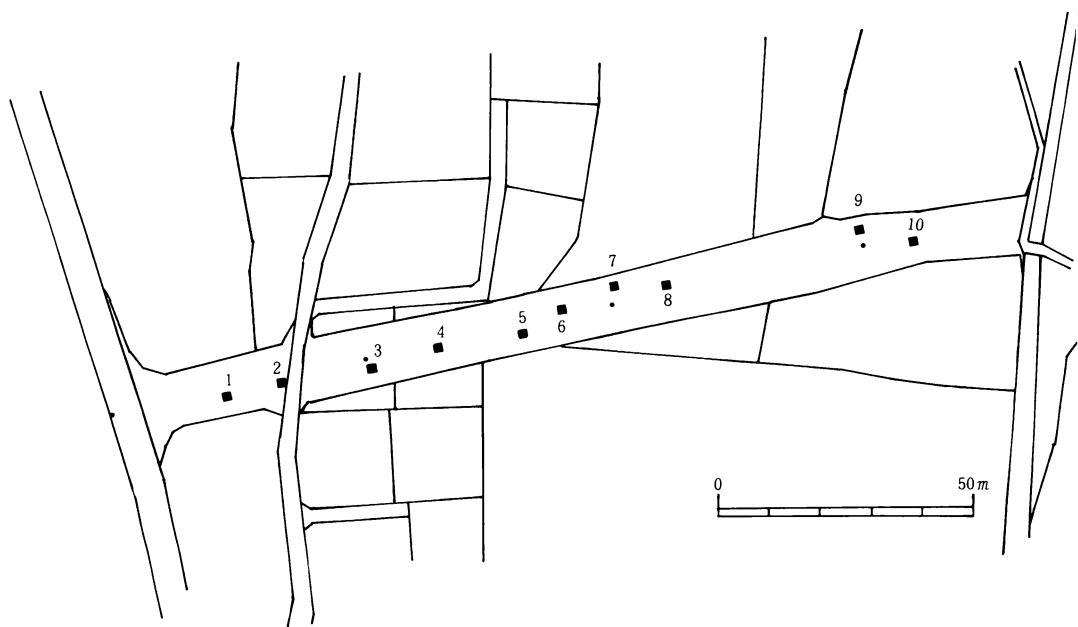
調査地区に10カ所のトレーニングを設定して調査を行ったが、一部において水の湧出もあり遺構・遺物は検出されなかった。

土層はNo.1 トレーニングで、黒色土層が70cmあり、その下部は大きな石となっている。No.4とNo.6 トレーニングでは、黒色土層を40～50cm掘り下げるとき水が湧いてくる。No.5では黒色土層が60cmであり、下部から石になる。No.7では55cmで石となる。

調査地区全体は、黒色土層で覆われた地帯であり、その下部には大きな石の堆積層が横たわっていると思われる。さらに石の堆積層の間から水が湧き出ることから、一部において低湿地を形成していることが知られるのである。

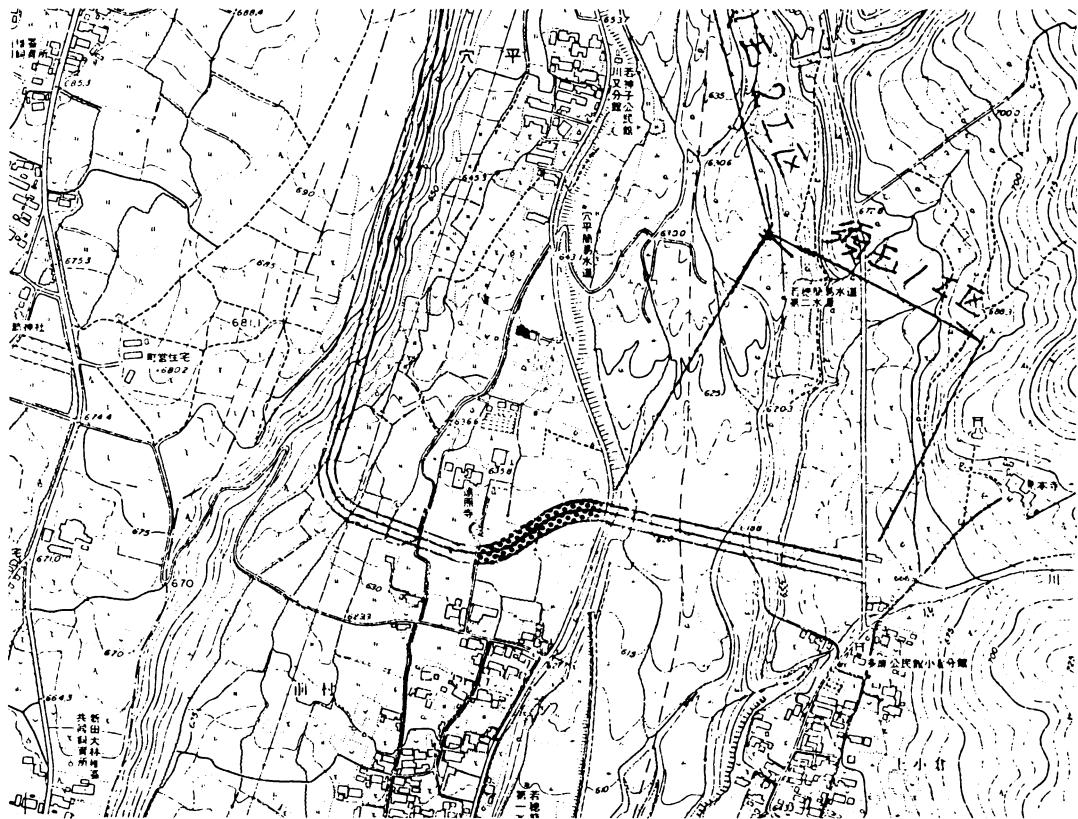


第5図 位置図



第6図 全体図

(4) 山梨県北巨摩郡須玉町穴平



第7図 位置図

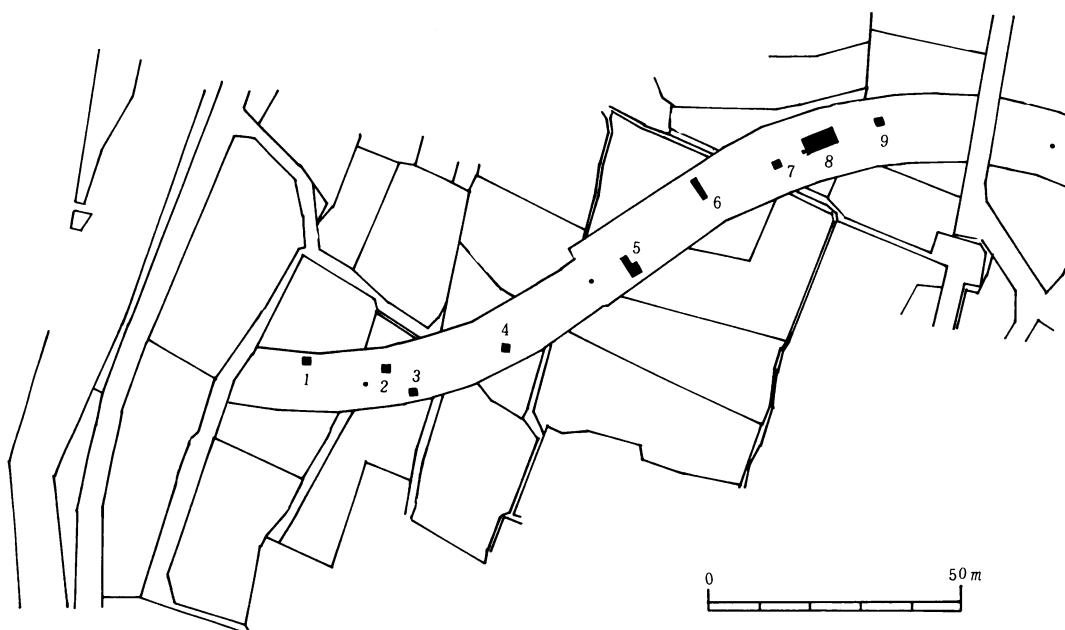
調査地区は、須玉町穴平の遠照寺南側の200m区間である。須玉町右岸に発達した河岸段丘上に位置し、標高で630mほどである。

付近の土地利用は水田が主体であり、一部に畠地がみられる程度である。調査地区から須玉川沿いに北へ1.3kmで万年橋がある。この万年橋に至る右岸の河岸段丘上の多くが、現在圃場整備事業が進められており、すでに縄文時代や平安時代および中世の集落遺跡が発掘されている。

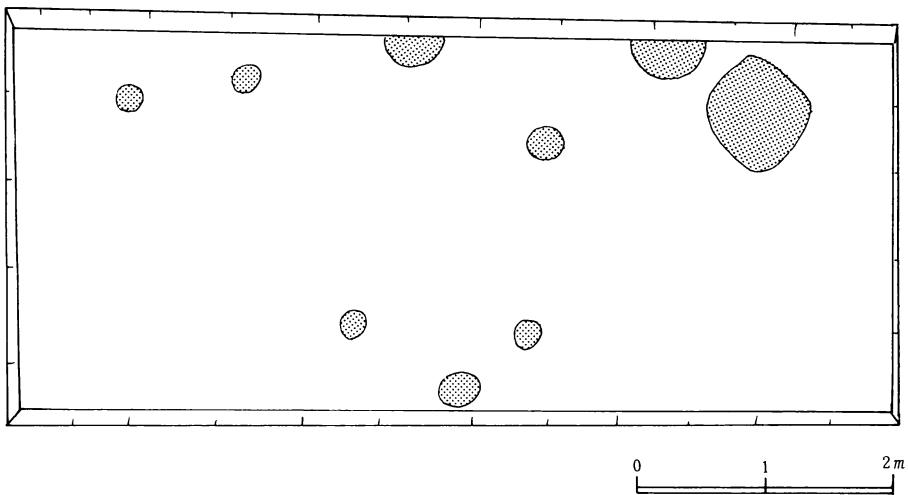
調査地区は、それらの遺跡の一画を占めることが予想されたので、200mの区画に9カ所のトレンチを設定し、一部のトレンチについてはやや面積を広くして調査を行った。試掘の結果は、No.8 トレンチにおいてピットと土壙を確認することができた。なお遺物についても土師器の小破片を検出している。

土層は水田であったNo.6 トレンチを標準としてみた場合、I層は耕作土層で30cmあり下部の8cmほどは床土で鉄分沈着層となっている。II層は黒色土層で16cmほどである。III層は黄褐色土層で地山である。No.5 トレンチではII層から人頭大前後の石が堆積していた。この部分については、発掘調査（西川遺跡）との関連で、かつて流出してきた自然石の堆積とされるものである。

No.8 トレンチから遺構が確認されているが、その確認面は、地表から60cm掘り下げた面であり、II層直下でIII層上面にあたるところである。遺構はピット群と土壙である。ピットは直径25cm前後的小ピットが6カ所、直径50cm前後の大ピットが2カ所、土壙は一辺70cmほどの方形である。柱穴と考えられるピット群から、掘立柱の建物址が存在していたことが推定されよう。

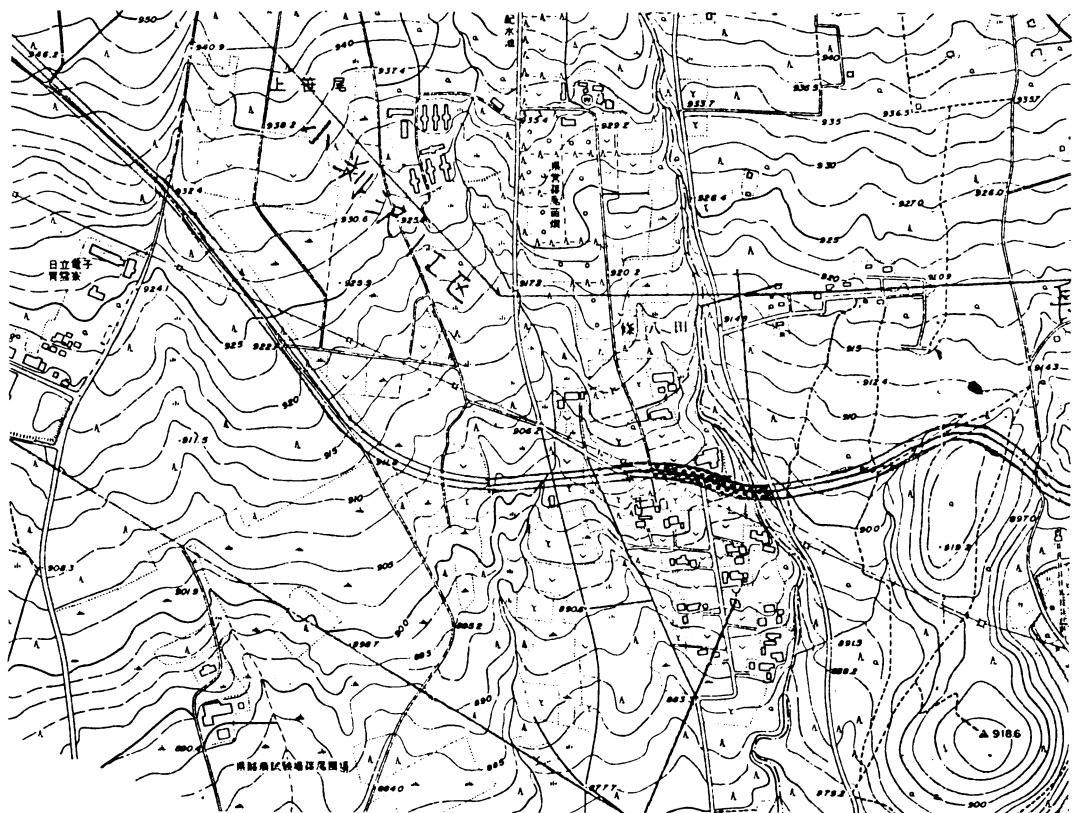


第8図 全体図



第9図 遺構図

(5) 山梨県北巨摩郡小淵沢町篠八田



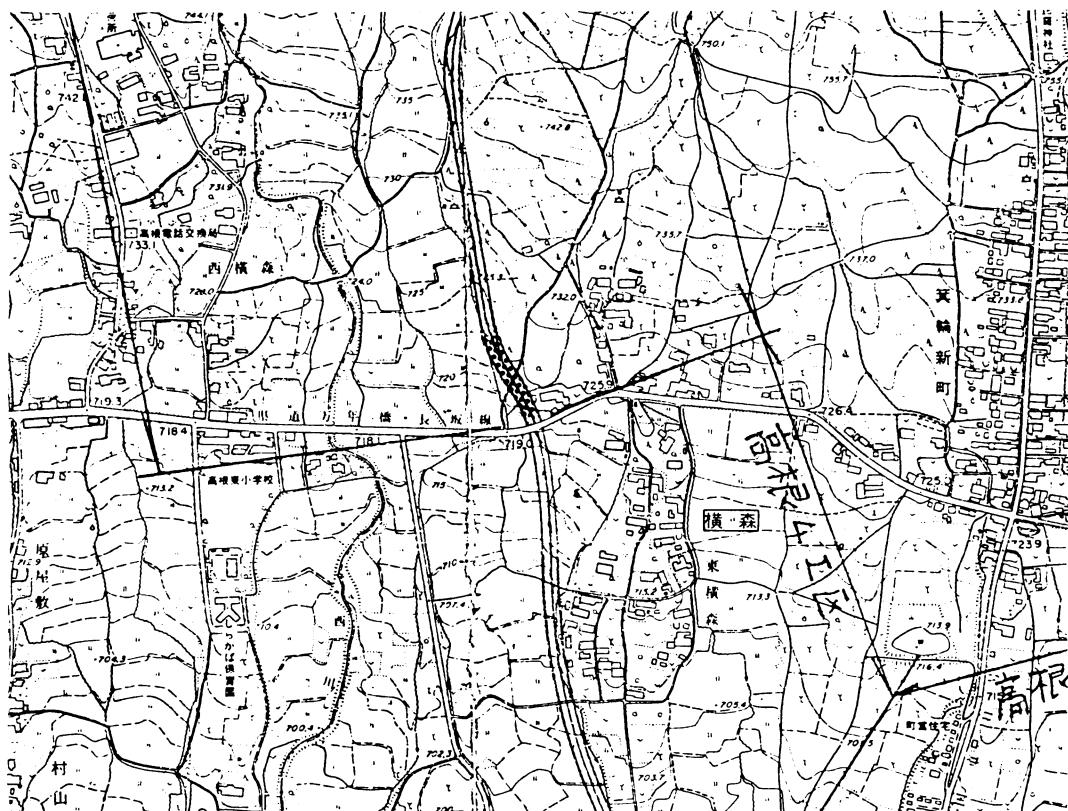
第10図 位置図

調査地区は、試掘調査を行った長坂町大井カ森地区と女取川を挟んで向かいあう場所である。標高900mほどで、ゆるやかな南面傾斜地において、主に縄文土器の散布を確認している。その

分布状況は女取川から西の集落側へ150m位までの範囲である。

第13図 1～5が表面採集されている。いずれも深鉢形土器である。1は口縁部で斜行沈線文を施したものである。2は胴部であり沈線によって渦巻文を施している。3は縦方向の沈線文である。4は沈線による区画内を斜行沈線で埋めている。5は口縁部に隆線による文様帯を施し、区画内は縄文を埋めている。それぞれ小破片であるが、その文様構成などから縄文時代中期後半の時期といえるものであり、いわゆる曾利Ⅲ式からⅣ式であるといえよう。以上のことからこの地区に湧水を利用した縄文中期の集落の存在をうかがうことができよう。

#### (6) 山梨県北巨摩郡高根町東割



第11図 位 置 図

調査地区は、標高720m付近で、南北に走る小尾根の西側の裾である。尾根の先端にあたる南側には、東西に県道万年橋・長坂線が通っている。なお遺物の散布状態は、尾根の西裾に沿って約100mほどの区間である。

尾根の西側一帯に広がる水田は、かつて圃場整備事業が実施されたところであり、青木遺跡・青木北遺跡として発掘調査されている地域である。

表面採集された遺物は、縄文土器および平安時代の土師器・須恵器である。第13図 6～10はその一部である。6～8は縄文の深鉢形土器の小破片であり、縄文を地文としたものである。6・8は口縁部がゆるやかな反りをもつ。口縁部は無文となっている。

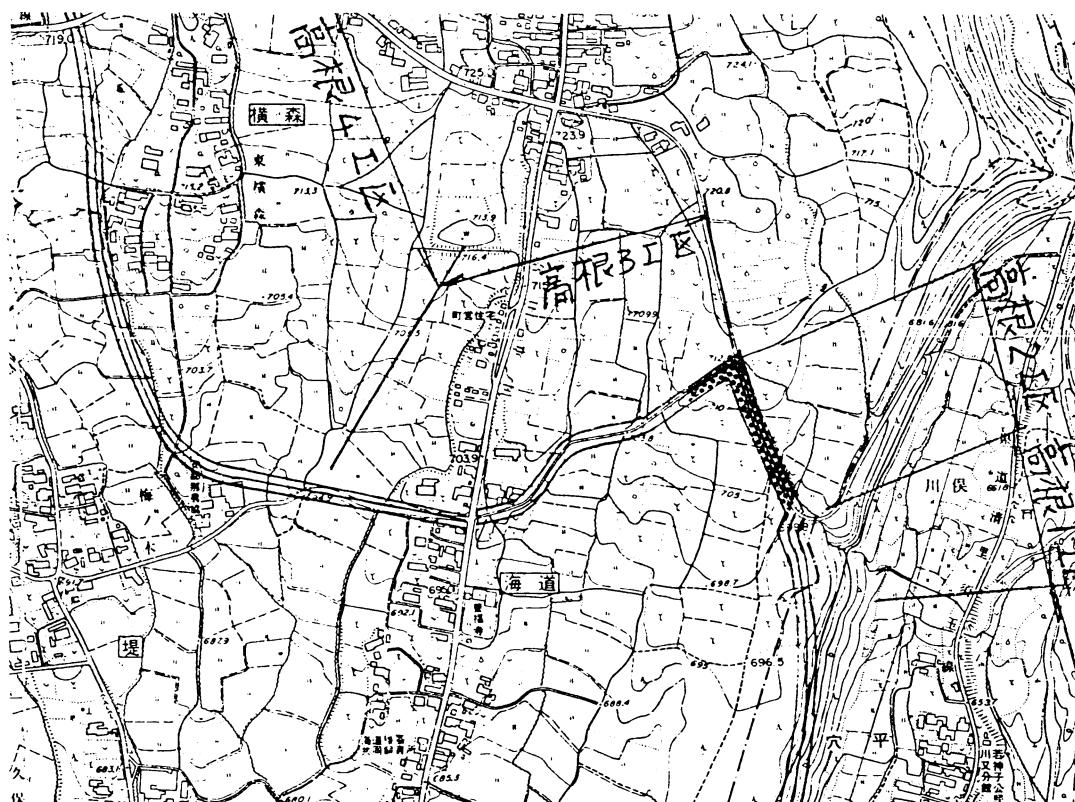
10は須恵器である。小破片であり形態は判定しにくい。格子目状のたたき痕がみられる。縄文土器は中期後半に位置づけられるものである。

#### (7) 山梨県北巨摩郡高根町箕輪

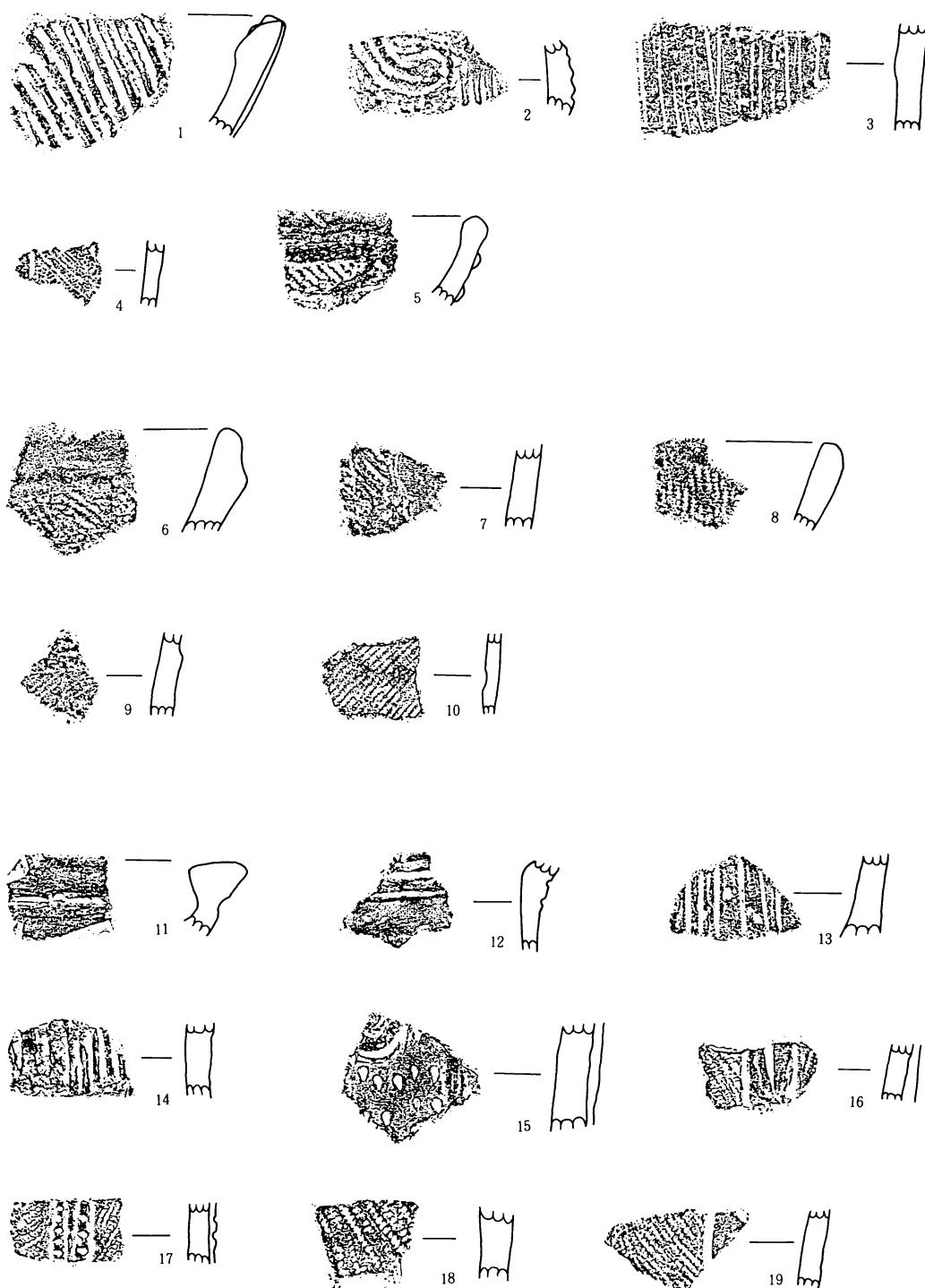
調査地区は、標高710m付近で、東側に須玉町やその右岸の河岸段丘上に広がる穴平地区を臨む台地上である。県道万年橋・長坂線が台地の縁辺で須田町から高根町に入って、北へ向かって上がりきった付近である。周囲は桑畠が広がり、西側のやや低地には水田がある。さらにその西に国道141号線が南北に走っている。

遺物は縄文土器が表面採集されている。第13図11～19がそれである。11は口唇部が厚く無文である。12は頸部付近で横位に沈線が施される。13・14は胴部で縦方向の沈線がある。15は列点文を施している。16～19は縄文を地文とするものである。16・17は隆線を施している。

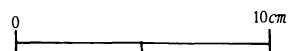
縄文土器は中期後半が主体である。南面傾斜する台地の小尾根上に約250m範囲に縄文時代の集落の存在が推定される。



第12図 位置図



1~5 小沢沢町篠八田  
6~10 高根町東割  
11~19 高根町箕輪



第13図 土器拓影

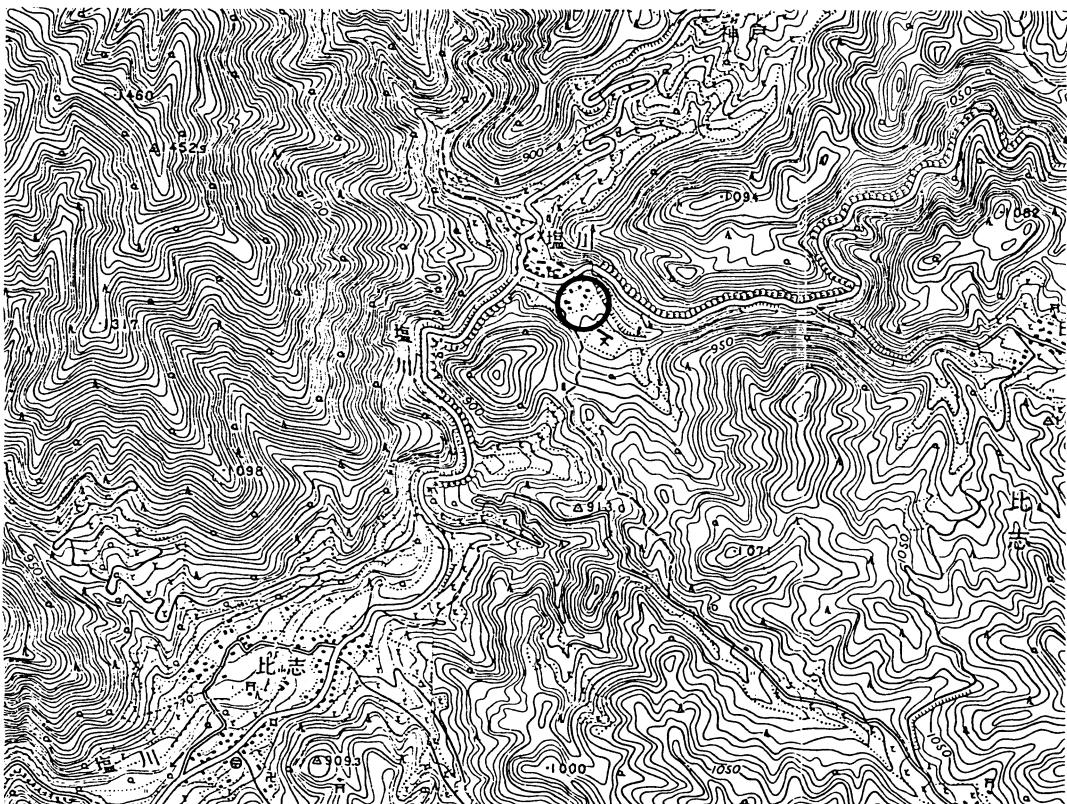
## II. 塩川ダム建設計画地内遺跡分布調査

### 1. はじめに

山梨県北巨摩郡須玉町塩川地内のダム建設事業に伴う遺跡詳細分布調査をおこなったが、ダムによって水没する地域の試掘調査ならびに関連の道路建設計画地内の踏査である。対象地域は須玉町塩川地区と比志地区である。なお、調査は10月から12月にかけて実施した。

### 2. 分布調査

#### (1) 山梨県北巨摩郡須玉町塩川



第14図 位 置 図

塩川水系は、釜無川の1支流である。釜無川との合流地点より上流へ約22kmに塩川の集落がある。南流する塩川へ西流してきた本谷川が合流するところである。

調査地区は、須玉町立北小学校の西側の地域であり、本谷川左岸の河岸段丘上である。標高846m～849mのところであり、付近は水田と畑地である。24カ所にトレンチを設定して試掘を行った。

試掘の結果は、遺構・遺物について確認することはできなかった。土層はNo.2 トレンチで、I層が黒色土層で30cmあり、II層は砂質の黄褐色土層で地山となる。II層の上面には大きな石

も含まれる。No.18では黒色土層が60cmとなり、地山となる。No.24では耕作土の40cmから下部は砂質土壌となる。

調査区全体は、本谷川の氾濫源的な様相をうかがうことができ、遺構などの検出は困難であった。



第15図 全体図

## (2) 山梨県北巨摩郡須玉町比志

塩川ダム建設に伴う県道の付替えが計画されている地区である。比志の集落を抜けて塩川へ向かう県道沿いの小台地上である。地形としては塩川の左岸の河岸段丘上に接した場所であり、標高は800mほどである。

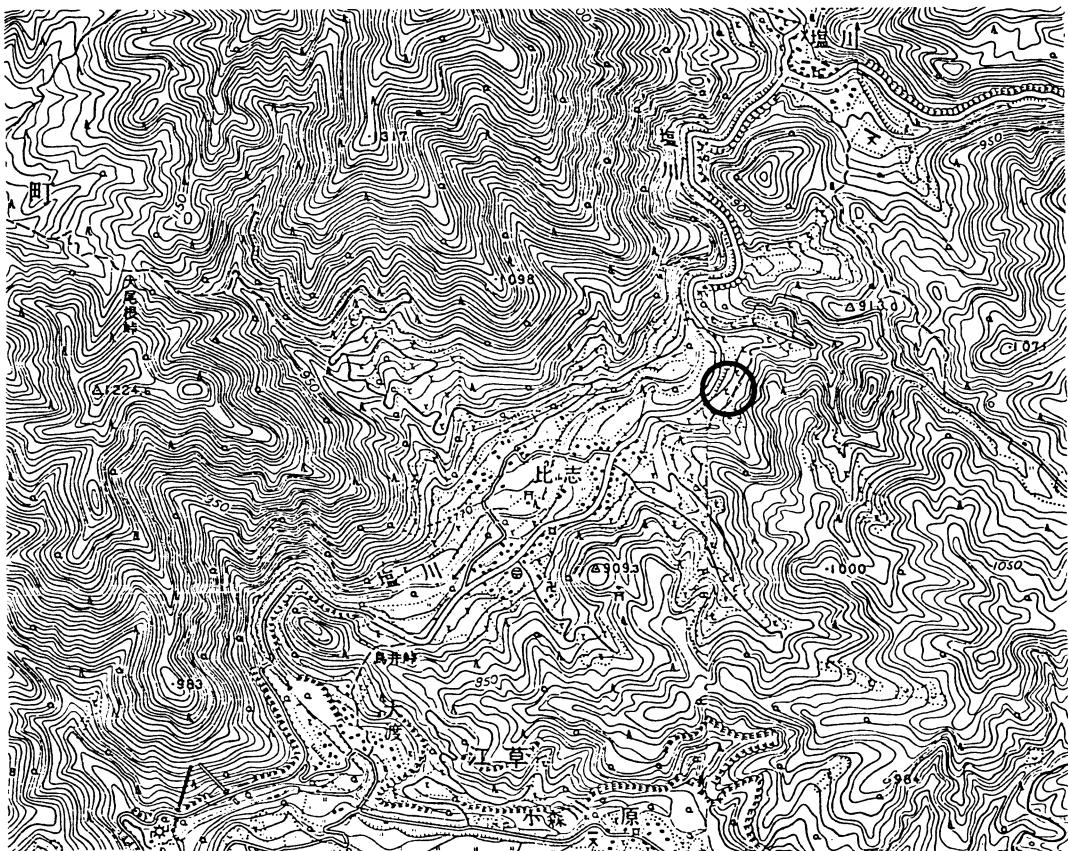
かつて比志から塩川へ向かう塩川左岸における主要な道がこの台地上を通っていたが、現在は農道として利用されている。なお調査地区は桑畠となっている。

遺物は縄文土器と石器が表面採集されている。第17図1~10である。1・2は凹石である。両面の中央に凹部分がみられる。2については長軸の一端に打痕がある。石材は安山岩である。3は石棒である。破損しているが直径10cmほどで長円形を呈する。石材は安山岩である。

4は頸部であり、沈線と隆線を用いる。5は沈線による区画を行い、斜行沈線を施す。6は列点状の刺突文である。7は口縁部がゆるやかに広がるものである。口縁部を横位の沈線によって区画し、さらに胴部も区画を行いその中を連続ハの字文で埋めている。8は口縁部に2本の沈線による弧状文をめぐらすものである。9は2本の沈線区画内を縄文で埋めている。10は口

縁部を隆線で区画し、胴部にかけては縄文を施すものである。

表面採集された土器は、7～10などによって縄文時代中期後半でも最終末が主体となっている分布状況をうかがうことができる。



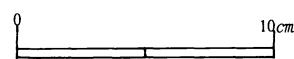
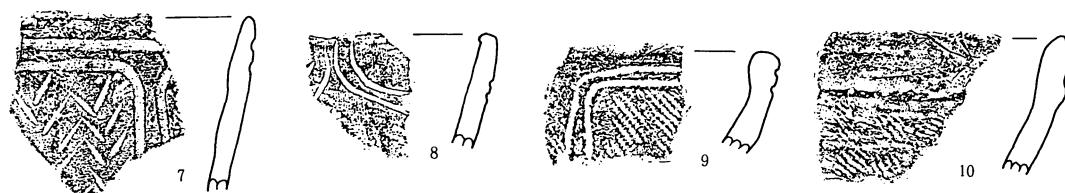
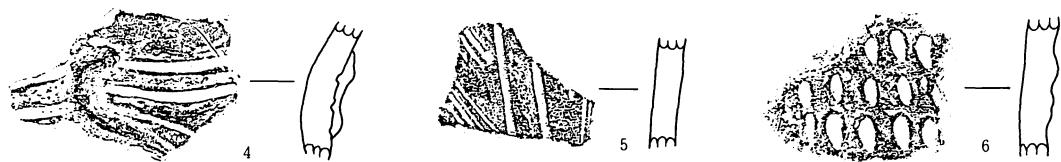
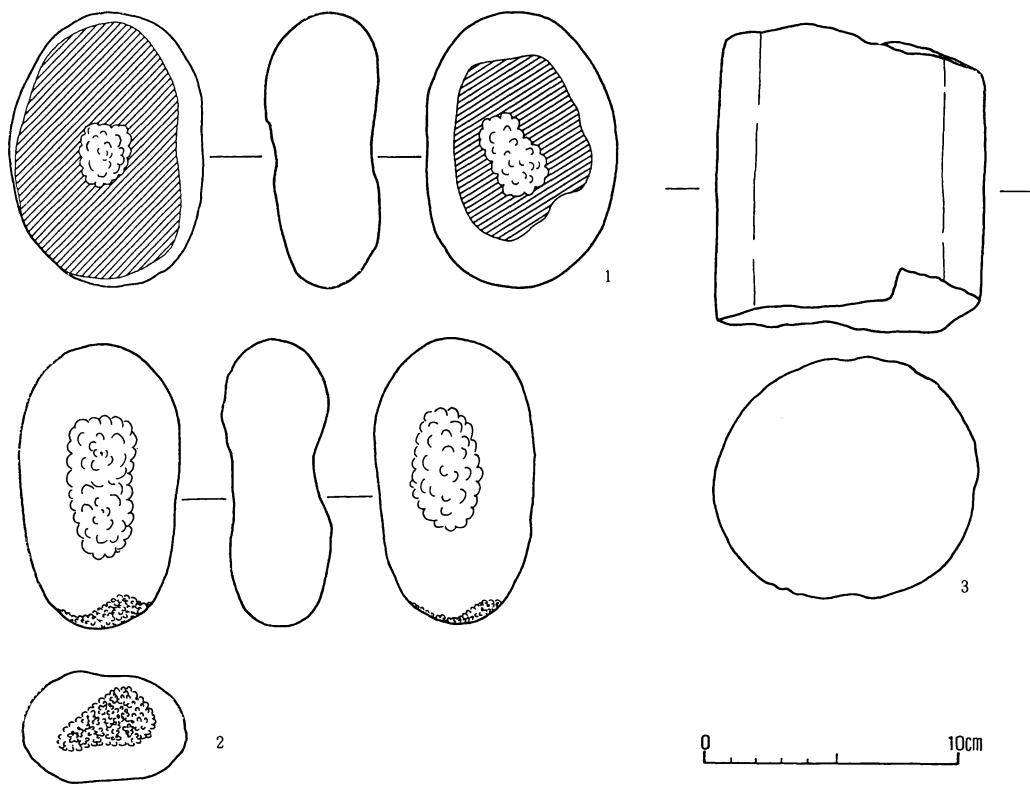
第16図 位 置 図

### (3) 山梨県北巨摩郡須玉町塩川

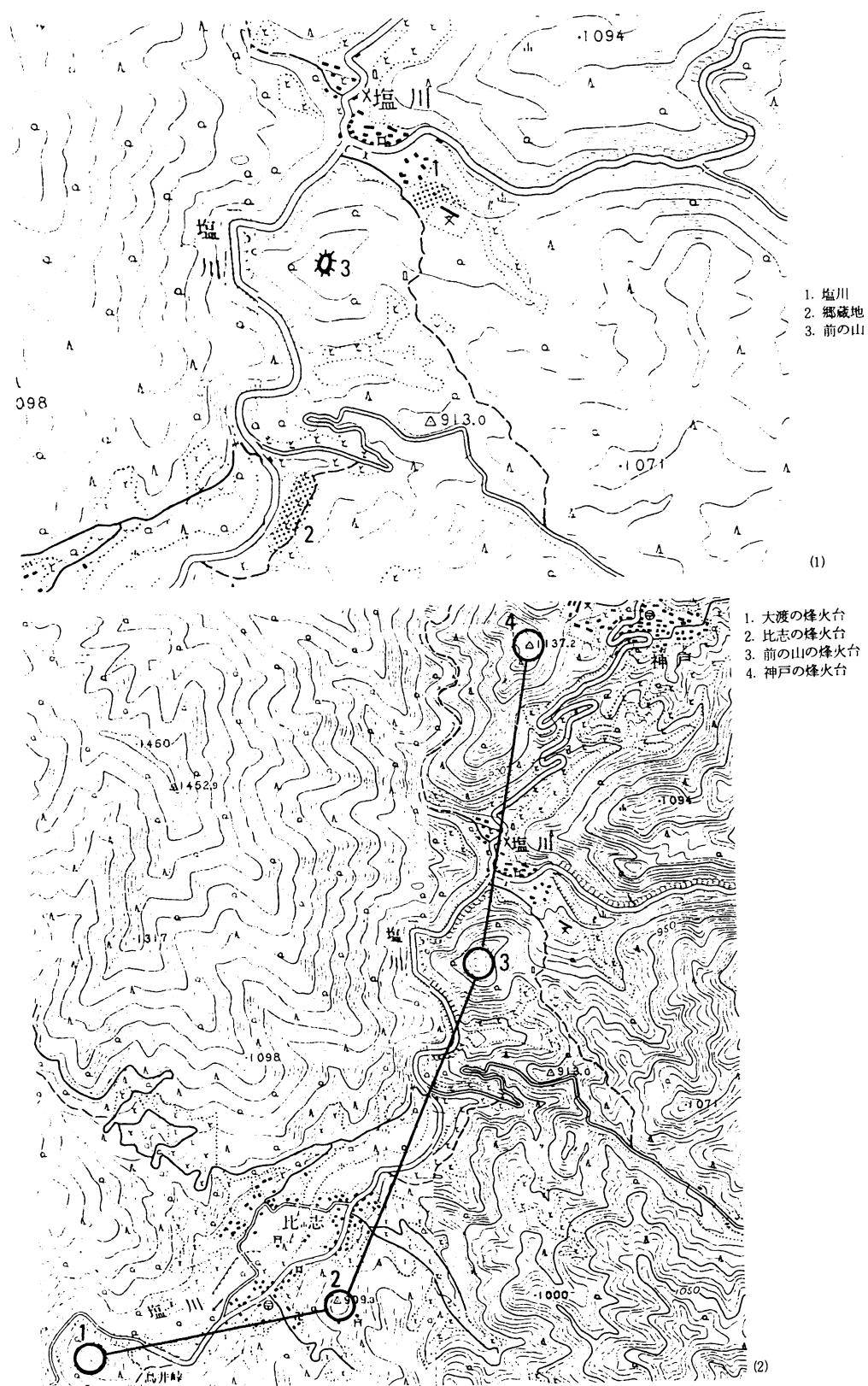
塩川と本谷川の合流地点付近が塩川の集落である。集落の南に位置して独立した山容をもつ標高988mの前の山がある。前の山の山頂一帯が烽火台とされている。

山頂の平坦部は15m四方ほどあり、西南側に石積み遺構が残されている。頂上からの眺望は良く、北方に神戸の烽火台が見え、南方には比志の烽火台が見える。

塩川沿いにはいくつかの烽火台の存在が記録などによって知られているが、信州へ通じる街道の要所に置かれており、大渡の烽火台などは山頂の主郭からやや下がったところに、腰郭や帶郭が鳥居峠のある街道に面して構えられている。またそれぞれの烽火台の裾にある集落（根古屋などの呼称がある）は、その管理のために形成されたと考えられる。前の山の烽火台は、神戸の烽火台まで1,250m、比志の烽火台まで1,400mの位置関係にある。なお比志の烽火台から大渡の烽火台までは1,000mである。この烽火台の施設は大規模なものではないが、戦国期における武田氏の領国経営の上で重要な城郭として考えられるものである。



第17図 石器実測図・土器拓影



第18図

### III クラフトパーク（峠南工芸公園）計画地内遺跡分布調査

#### 1. はじめに

南巨摩郡下における広域公園として、山梨県土木部が計画しているクラフトパーク（峠南工芸公園）地内の遺跡分布調査を行ったが、この対象地は、南巨摩郡身延町下山にあって、その面積は約 50ha である。

甲府盆地の水を集めた富士川が、南アルプスの麓を流れる早川と合流した地点の右岸、段丘上にあって、標高235m～300mのなだらかな斜面が広がっている。この斜面及び西側の栗倉山東麓一帯が計画地で、富士川中流とすれば、特別に段丘の発達した場所であり、一見すると遺跡の豊庫のようにもみえる。

しかし、過去の分布調査で知られている遺跡は、中世の穴山氏が築いたと思われる焰硝蔵の遺構がある。ここは公園進入道路の橋下となるが、一部試掘をしているので別項で詳述する。この他周辺には栗倉山山頂の城跡（?）及び旧本国寺跡、穴山氏館跡などと伝えられる場所があるが、古代以前の遺跡は知られていない。

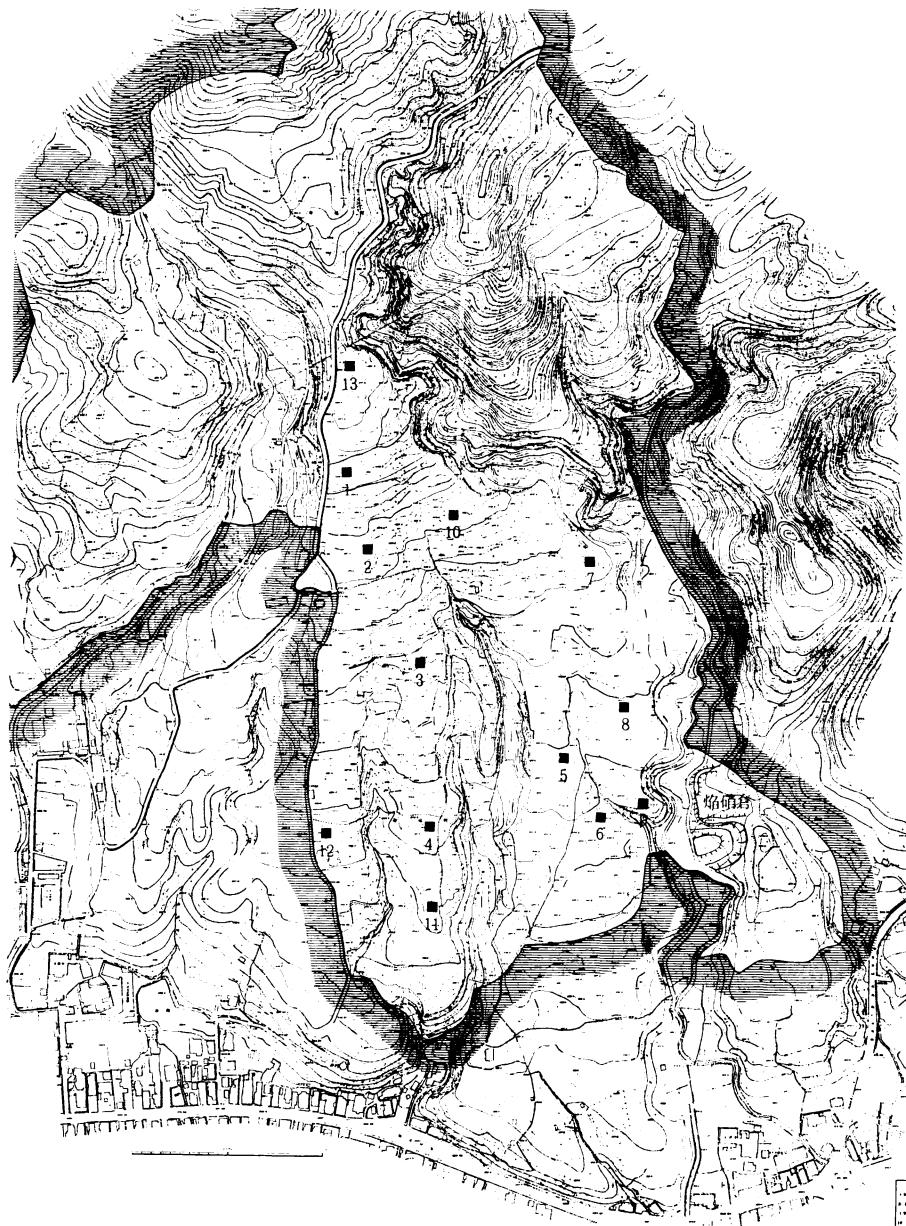


第19図 クラフトパーク位置図（○印）

## 2. 調査の方法

県土木部作製の峠南工芸公園用地測量図 ( $S = 1 : 1,000$ ) 及び峠南工芸公園平面図 ( $S = 1 : 2,500$ ) の地図を使い、表面採集可能な畠の踏査、及び墳丘等存在する場合はボーリングステッキによって内部遺構等を確認した。又、山林、原野、荒地等については、部分的に試掘を行い、遺跡の有無、遺物の有無を調べることとした。

調査は、県埋文センター文化財主事末木健、八巻與志夫を中心となり、調査員 1 名、作業員 3 名とともに昭和62年 2月 1日から 2月 28日まで調査し、この後、採集資料の整理作業を行った。



第20図 公園計画地地形図

### 3. 調査結果

#### ① 分布調査結果

字宇山 1426-磁器1点、1457-磁器7点・陶器2点・土師質土器1点、1464-磁器6点・土師質土器3点、1462-磁器1点・土師質土器2点、1466-磁器6点・陶器4点・土師質土器1点、1497-磁器2点・陶器1点・土師質土器1点

字仲林 1484・1485-土師質土器3点、2060・2061-磁器10点・陶器3点・土師質土器1点、2064・2065-磁器7点・陶器1点・土師質土器4点、2071-陶器8点、2072~2076-磁器10点・陶器5点・土師質土器2点、2103・2104-磁器12点・陶器5点・土師質土器5点、2113-磁器5点陶器4点・土師質土器2点、2139-磁器25点・陶器12点・土師質土器9点、2143-磁器3点・土師質土器1点

字藤塚 1641-陶器1点・土師質土器2点、1646・1670-磁器8点・陶器1点・土師質土器1点、1653-陶器6点

字鶴巻 397~407 中世の焰硝蔵跡と伝えられる遺構あり。（第21図）

字柏尾 1169 塚があり、上に八王子社が祭られている。

山は踏査したが平坦面が極めて少なく、遺跡の立地するような地点は認められなかった。

#### ② 試掘調査結果

1号トレンチ-遺物なし

2号トレンチ-磁器3点、陶器1点

3号トレンチ-打製石斧1点、土師質土器2点

4号トレンチ~10号トレンチ-遺物なし

11号トレンチ-磁器1点

12・13号トレンチ-遺物なし

#### ③ 試掘調査地点の土層

1号トレンチ-表土34センチ、地山（礫混入褐色粘質土）

2号トレンチ-表土20センチ、地山（同上）

3号トレンチ-表土30センチ、地山（同上）

4号トレンチ-表土21センチ、地山（褐色粘土層）

5号トレンチ-表土21センチ、地山（赤色粘土層）

6号トレンチ-表土26センチ、地山（褐色粘土層）

7号トレンチ-表土20センチ、地山（礫混入褐色土）

8号トレンチ-表土31センチ、地山（礫混入褐色土・礫多い）

9号トレンチ-表土42センチ、地山（同上）

10号トレンチ-表土22センチ、地山（同上）

11号トレンチ-表土39センチ、地山（黄褐色粘質土）

12号トレンチー表土25セン、地山（褐色粘質土）

13号トレンチー表土20セン、地山（礫混入褐色土）

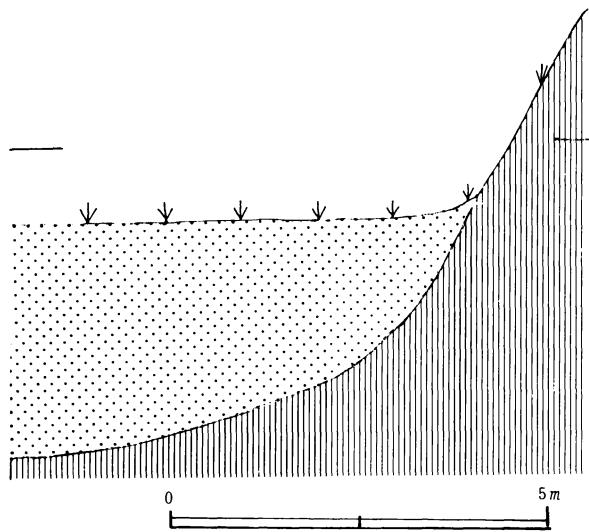
表土が浅く20~35センで地山に達する。遺物は殆ど含まれず、粘質が強い土壤である。

#### ④ 焰硝蔵試掘状況

愛宕山南斜面を削り取って築造された遺構で、中央に高さ約3m、東西20m、南北30mの長方形台状テラスが残り、上部平坦面は東西12m、南北23mの長方形である。周囲を巡る堀は巾が一定しないが、狭い所で7m、広い所で17mの巾がある。この堀の深さを調べる為に重機で掘り下げたところ、現地表よりも更に3m程下で基盤層が確認された。なお、この西側には土壘をめぐらしたテラスがあり、南北50m、東西50mの台形をした面が残る。



第21図 焰硝蔵跡試掘位置



第22図 焰硝蔵跡堀セクション

堀部分トレントは、2ヶ所に設定した。台状部北側隅から東方向に、長さ6m、巾1.5mの1号トレントを設定し、2号トレントはそのすぐ南で長さ2m、巾1.5m、深さ1mである。1号トレントは、堀外側の斜面角度を保ったまま1.5m程下がり、外壁から6mの地点では深さ3mまで掘り下げられている。堀を埋めている土は、粘質の強い褐色土で、あまり砂礫を含んでいない。2号トレントは外壁の落ち込みを再確認するためのもので

あるが、特別な施設は1号トレントと同様に認められなかった。堀は素掘構造で断面は舟底形を呈するものと思われる。

#### 4. ま と め

分布調査の結果、先土器時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺跡や遺物は発見できなかった。又、中世以降の土師質土器や陶器、磁器等が採集できた畳は筆数で25筆程である。これのうち、遺物が多く出土するのは宇山地区、仲林地区であるが、他の地区は山林原野が多く、充分な調査ができなかつたが、試掘結果からしても、大規模な遺跡は無かろうと思う。

なお、保存を構すべき遺構には焰硝蔵跡及び西側の郭と、粟倉山中腹の八王子社である。遺物分布地区で仲林、宇山両地区は造成時あるいはそれ以前に面的な調査が望まれるかもしれない。

文末ではあるが、調査に協力していただいた身延町教育委員会及び県身延土木事務所の方々に御礼申し上げます。

### 穴山氏館

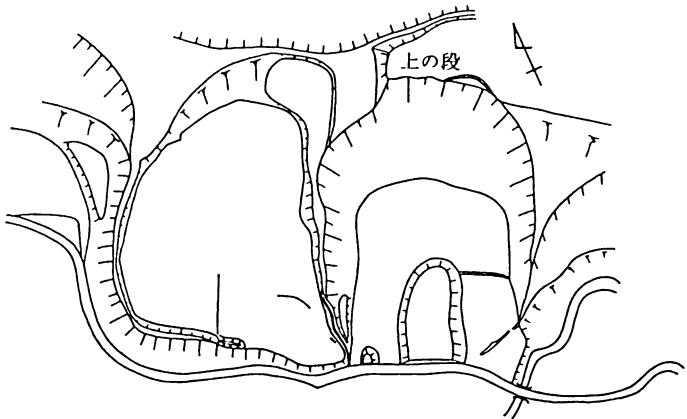
粟倉山の東裾、富士川沿岸の身延町下山は、甲府と駿河を結ぶ駿州路の要衝である。古くは甲斐源氏の流れをくむ下山氏の本拠地であり、下山氏館とほぼ同じ位置に規模を拡大して築かれたのが穴山氏館であると伝えられている。

粟倉山からのなだらかな傾斜が続く本国寺や身延北小学校付近が館がおかれた場所とされており、遺構の可能性があるもの

としては、下山保育園東側の竹藪内の溝状のもののみであるが、明治の初年には小学校建設の際、加工された石がいくつか掘り出されている。

穴山氏が確実に下山に居住していたと考えられるのは穴山信君の父・信友の代からであり、天正三年には信君は駿河の江尻城主となつたため、下山の地からは離れることとなつたであろう。

周囲に目を転じると、粟倉山は烽火台として知られ、頂上付近には平坦地が見られる。また、下山の集落の北側を流れる北沢川が山間に入る付近に「煙硝蔵跡」と呼ばれる所があり、穴山氏の時代のものと伝えられている。



第23図 煙硝蔵概要図

# 図 版

図版  
1 八ヶ岳広域農道試掘



小淵沢町棒道下試掘風景



セクション



No. 4 トレンチ



長坂町大井カ森試掘風景 (1)



同上 (2)



同上トレンチ



大泉村大芋試掘風景



同上トレンチ



同上トレンチ



須玉町穴平試掘風景



同上トレンチ



同上ピット群



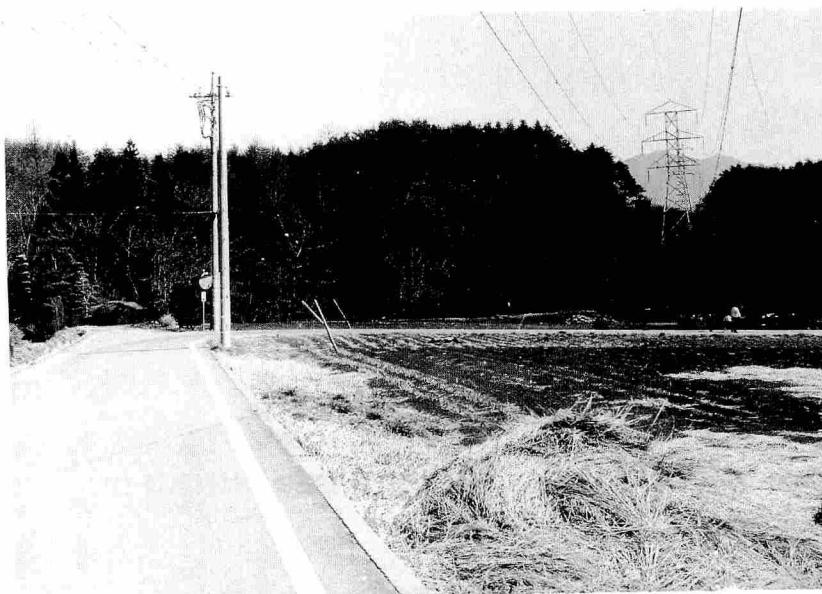
須玉町塩川試掘風景 (1)



同上 (1)



同上トレンチ



小淵沢町篠八田

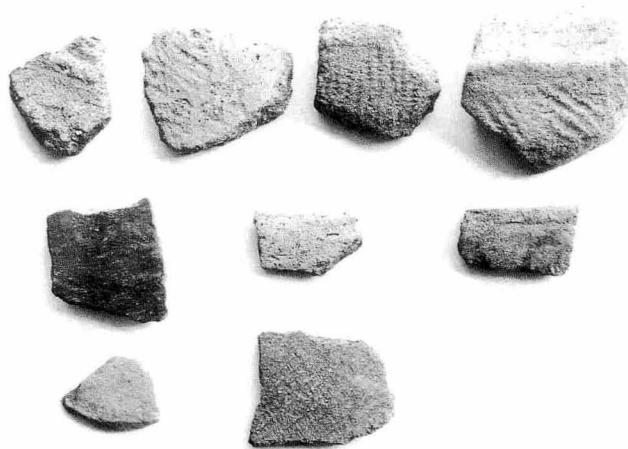


同上土器

図版 7  
八ヶ岳広域農道分布調査



高根町東割



同上土器



高根町箕輪



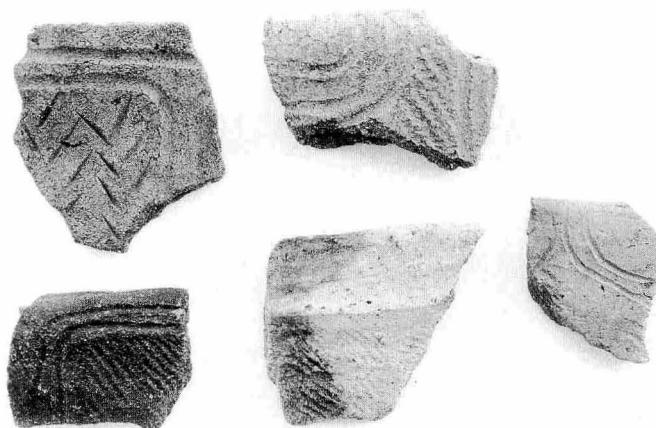
同上土器



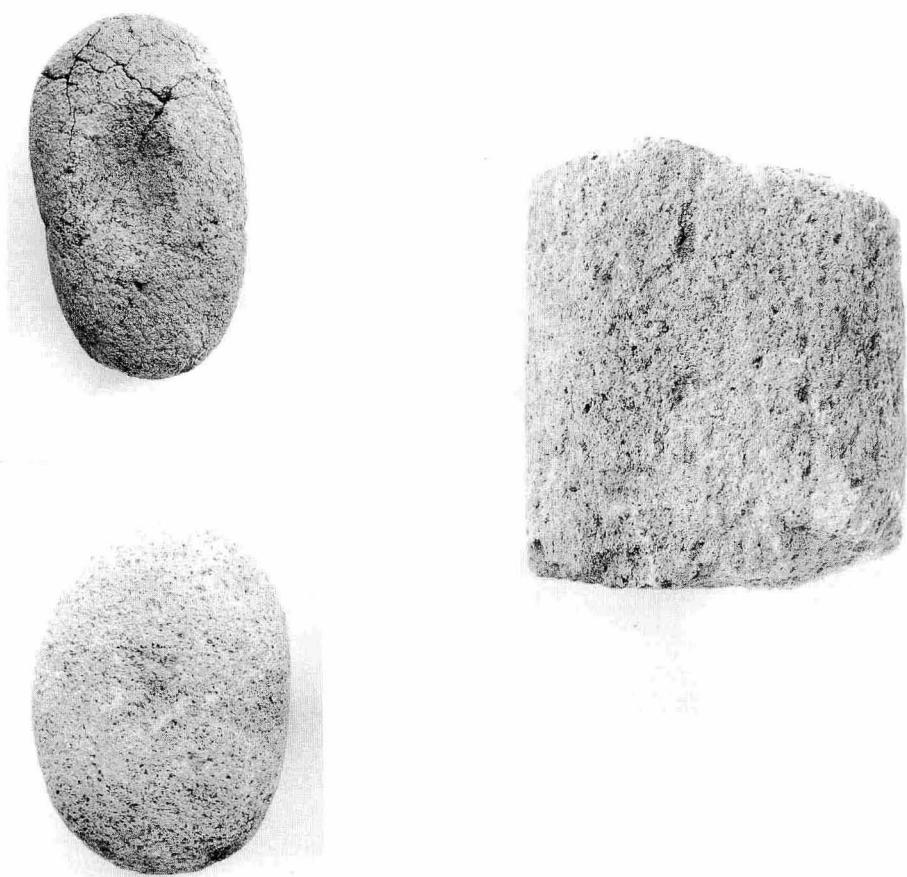
須玉町比志



同上土器 (1)



土器 (2)



石器



公園計画地航空写真

クラフトパーク



硝煙倉台状部



硝煙倉堀セクション



八王子社



3 トレンチ



3 トレンチ



4 トレンチ



5 トレンチ



6 トレンチ



7 トレンチ



8 トレンチ



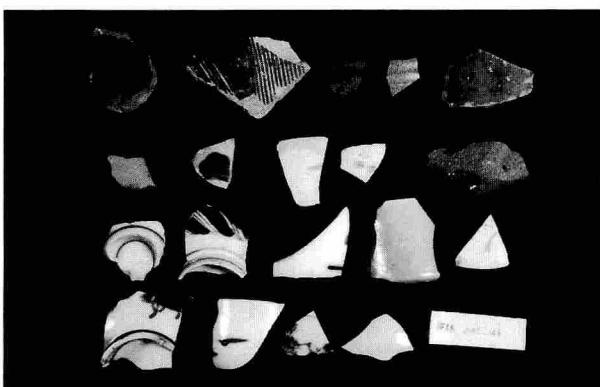
10 トレンチ



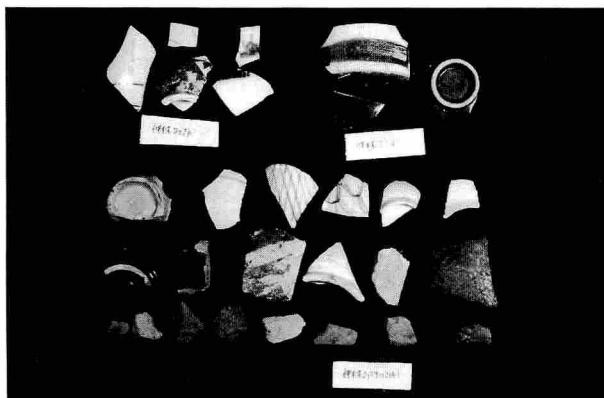
2号トレンチ出土遺物  
3号トレンチ出土遺物  
11号トレンチ出土遺物



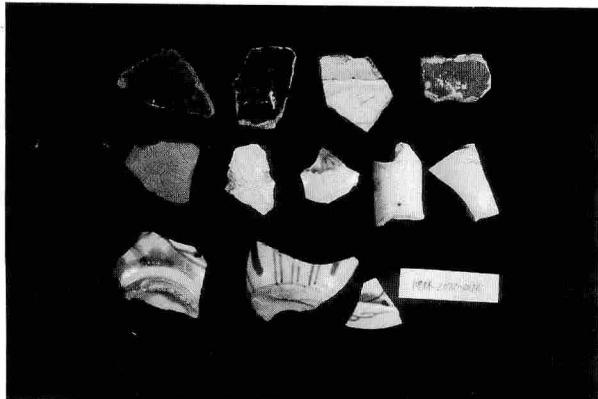
仲林2113  
仲林2060・2061  
採集資料



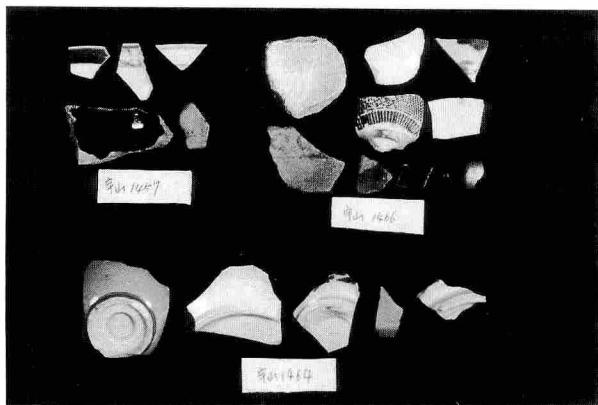
仲林2103・2104採集資料



仲林2139～2141採集資料



仲林2072～2076採集資料



禹山1457・1466・1464採集資料



藤塚1653・1670・1646採集資料

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書  
第 28 集

やつがたけとうなんろくはかいせきぶんぶちょうさ  
八ヶ岳東南麓他遺跡分布調査報告書

印刷 昭和62年 3月27日

発行 昭和62年 3月31日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 山梨県教育委員会

印刷 (株) 峡南堂印刷所

